

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1074 2009年9月号

～四国初の会社有林と国有林の協定締結～

住友林業(株)新居浜山林事業所と嶺北森林管理署は、社有林と国有林の共同施業団地の設定を行いました。

【詳細は2頁以降に掲載】



効率的な作業道を核とした森林整備推進協定の締結

～四国で初めての会社有林と国有林の協定締結～

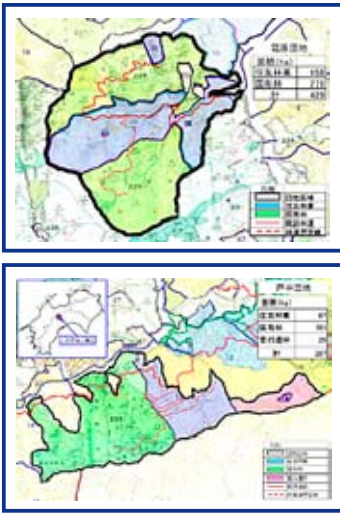
〈嶺北森林管理署〉

地球温暖化の防止には、森林の有する二酸化炭素の吸収機能をより高める間伐等の森林整備を適切に行っていくことが重要です。

また、この森林整備を推進していくためには、森林を所有形態で分断するのではなく、一定のまとまりをもって取り扱うこと、整備に不可欠な作業道を効果的に配置すること等により、森林整備の効率化を図っていく必要があります。

このため、嶺北森林管理署と住友林業(株)新居浜山山事業所は、高知県の町本川地域に所在する国有林四九一ヘクタールと住友林業(株)社有林二二五ヘクタールの合計七一六ヘクタールについて、二箇所の共同施業団

地(戸中二八七ヘクタール、葛原四二九ヘクタール)を設定し、平成二年八月六日に「いの町本川地域(戸中・葛原)の森林整備の推進に関する協定」を締結しました。



今回の協定は、民有林と国有林が連携して作業道の開設や間伐等の森林整備を適切、かつ効率的に行なうとともに、森林資源の循環利用を促進し、健全で豊か

な美しい森林づくりに取り組むことを目的としたものであり、四国森林管理局と住友林業(株)は、この協定を機に、この取組が今後、地域に広がり根付くよう、周辺民有林所有者に対しても森林共同施業団地への参

国有林公開講座を開催

〈企画調整室〉

四国森林管理局は、四国の一割に当たる十八万ヘクタールの国有林を管理経営しており、多様化する国民のニーズを踏まえつつ、国土の保全や地球温暖化の防止に向けた森林の整備・治山事業、森林環境教育の実施や森林とのふれあいの

加を呼びかけていくこととされています。

なお、同地域には、国有林と住友林業(株)社有林が隣接して所在する箇所が多く、森林整備のための作業道等を開設する場

場の提供など「国民の森林(もり)」として適切な国有林の管理経営に努めています。

こうした中、「国民の森林(もり)」に相応しい、より「開かれた国有林」を目指し、「美しい森林(もり)づくり」水と森林について考える」をテ

が効率的であることから、一定のまとまりを持つ国有林と住友林業(株)社有林とで共同施業団地に設定することとしたもので、国有林と会社有林とによる共同施業団地の設定は、四国では初の取組となるものです。

マに、平成二年八月八日四国森林管理局会議室において「国有林公開講座」を開催しました。当日は、五八名の参加があり、森林管理局より森林の役割や森林管理局の業務について紹介した後、参加頂いた皆様と意見交換を行いました。

参加者からは、
○四国の山は一つなので、民有林と国有林が連携した森林整備が重要。

○天然林が主体の国有林をレクリエーションや癒しの場としての整備を進めて欲しい。

○水源地や溪流沿いの森林は、桜や紅葉を残すなど景観に配慮した施業も必要。

などのご意見を頂きました。森林管理局としましては、今後、これらのご意見を業務に活かし、地域の皆様の目線に立った、安全・安心な国土づくりに向けた取組を進めていきたいと考えています。



技術開発の取組を紹介

〈現地公開講座を開催〉

〈森林技術センター〉

八月二二日、「ヤナセスギを次代へ」森林技術センターの取組」と題して当センター主催による公開講座を安芸署管内の千本山で開催しました。

当センターでは、我が国を代表する天然スギであるヤナセスギの純林を後世に引き継ぐため、その天然更新技術の確立に向けて取り組んでいます。国民の皆様はこの技術開発の取組を理解して頂くとともに、林立するヤナセスギの雄大さと美しさを肌で感じて頂くため、昨年度に続き公開講座を開催しました。今年度は、一般公募にて募集した三二名が参加しました。



千本山試験地内での説明の様子

午前中は(独)森林総合研究所四国支所がヤナセスギの天然更新の研究を行っている千本山試験地において、天然更新の取組を紹介しました。参加者からは、「まったく人の手が入っていない森林の試験地はあるのか」、「人工林と天然林の違いは何か」等の多くの質問が寄せられました。

昼からは馬路村の森の案内人と千本山登山を開始しました。

参加者は林立するヤナセスギの大木を前に感嘆の声を漏らす一方で、ヤナセスギの後継樹の無い現状を目的の当たりにして、天然更新技術の重要性を実感したようでした。

参加者からは、「魚梁瀬の山々にこのような天然林があることに感動した」、「試験地等の見学やプロフェッショナルの話も聞



魚梁瀬丸山公園にて記念撮影

けて楽しく学ぶことができた」等の貴重な意見・感想をいただき、充実した公開講座を行うことができました。

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整室〉

〈企画調整室〉

平成二一年八月二八日、徳島県・香川県において、「第一回国有林モニター勉強会」を開催しました。当日はまずまずの天気に恵まれて、四国四県から国有林モニター一四名の方に参加いただきました。

当日朝、四国森林管理局を出発、最初の視察地である徳島県三好市池田町の「(独)水資源機構池田総合管理所」を訪問し、池田ダムを視察するとともに同第二管理課長から吉野川流域の利水状況とダムの機能について説明を受けました。参加したモニターからは、「吉野川と早明浦ダムは知っていたが、流域の水資源の説明や池田ダムでの多目的な利水管理について初めて知った」との意見がありました。

次に香川県まんのう町にある日本最大の灌漑用ため池(満濃池)及びその上流域にある杵多尾(くぬぎたお)国有林の視察を行いました。現地では、香川



森林管理事務所 所長 調整官から香川所管内の国有林の概要と森林整備の状況等について説明を行いました。モニターからは、「搬出方法と素材生産の単価の関係は」、「木材価格が低迷している中で、国は森林整備についてどのような政策を取っているのか」等積極的に質問が出されました。

香川の国有林の説明



今回の勉強会では、国有林の現地を視察し、森林の働きや国有林の仕事について説明を行うとともに、吉野川流域の利水状況や池田ダムの機能について直接話を聞くことができ、水の大切さ、また、水源地にある森林の重要性や森林整備の必要性について理解を深めて頂きました。



路網と列状間伐の説明

教育関係者のための森林環境教育支援講座を開催

〈指導普及課〉

八月七日、高知市工石山青少年の家と工石山自然休養林において、「教育関係者のための森林環境教育支援講座」を開催しました。



座学の様子

この講座は、高知県教育センターと連携し、森林環境教育の指導者の裾野の拡大を図ることを目的として、高知県中部・東部地域の教職員の方を対象に、平成十九年度から実施しているものです（高知県西部及び愛媛県南予地域の教職員を対象とした講座については、別途、四万十川森林環境保全ふれあいセンターが実施）。

今回は、五名の方が参加し、森林環境教育の重要性や森林の働き、木材利用等の講義を行いました。また、実習では、森林内と森林以外の土の水の浸透能力・水質浄化機能の比較実験、ネイチャーゲーム、間伐の体験、植物観察等を行



間伐体験の様子

先生と一緒に森林環境教育のカリキュラムを作成
 森林ふれあい担当者等
 会議を開催
 〈指導普及課〉

八月二五〜二六日、四国森林管理局大会議室等において、森林管理署等の森林ふれあい係長等を対象とした「平成二十一年度森林ふれあい担当者等会議」を開催しました。

今年度は、環境教育に熱心に

参加した先生は、熱心にメモを取り、子どもたちへの指導を意識した質問も出されるなど、森林環境教育に対する関心の高さがうかがえたところであり、今後の森林環境教育の積極的な取組が期待されます。



カリキュラム発表の様子

取り組んでいる高知市内の小・中学校の先生の集まりである「高知市教育研究会環境教育部会」との合同研修会も兼ねて実施しました。

合同研修会には、約四〇名の先生が参加し、はじめに、先生方の体験活動として、箸・箸置きづくりを行い、森林ふれあい係長等は指導者として参加しました。時間は一時間と短かったのですが、先生達は日頃使い慣れないナイフに戸惑いながらも、箸と箸置きを両方作った先生もいました。

次に、依光良三高知大学名誉教授から、「高知県の森林の食害シカを中心」と題した講演がありました。依光名誉教授が取り上げた地域は、高知・

徳島県境の三嶺・剣山周辺と愛媛・高知県境の三本杭・黒尊周辺です。森林ふれあい係長等がニホンジカ被害の実態を認識しているのに対し、先生の中には、高知県内にニホンジカが生息していることや食害があることについて全く知らないという先生もいました。

最後に、先生方が四〜五人のグループに分かれ、ニホンジカの食害を中心に、高知県の森林を題材とした森林環境教育のカリキュラムづくりを行いました。はじめに、題材を絞るために、各人が、①願ひ、②ジレンマ、③解決策を作成し、それを持ち寄って題材を決め、実際の授業を想定したカリキュラムを組み立てました。森林ふれあい係長等も各グループに入り、アドバイスを行うとともに、一緒になってカリキュラムを作成しました。話し合いの中で先生方からは、「森林の働き等をもっと知り、子どもたちに教えたいが、自分はその知識を蓄えることは難しく、カリキュラムの作成や森林環境教育の指導は、専門家をお願いしたい」という意見が出され、森林環境教育を進めていく上での課題が分かりました。また、森林ふれあい係長等は、実際に先生方が授業を作る過程

にふれることができました。今回の先生方との合同研修会を通じて、森林環境教育に対する先生のニーズを把握することができたとともに、カリキュラムづくりが体験でき、今後、各森林管理等における学校へのアプローチの取組に活かされることと期待されます。

ふれあいセンターでは、平成一九年度から、森林環境教育の指導者の拡大を図ることを目的として、教職員の方々を対象にした研修会を開催しています。今年も、七月二十八日には一五名が参加して四万十市立津野小学校で、八月六日には一六名が参加して松野町立松野西小学校で実施しました。

今年の内容は、当センターが教科書補完プログラムとして作成した「空飛ぶ種子」「土壌に

各地の たより

子ども達にも伝えたい！
 第三回森林の泉(学)育講座
 へふれあいセンター



一月前の生ゴミを掘ってみると

すむ生物」「炭素現存量の測定」と、「森林の持つ機能と森林環境教育の重要性」「炭焼き体験」「木工クラフト」の六つのプログラムを実践しました。

座学では、メモをとったり職員に質問する場面も見受けられ、先生方の森林・林業や環境への関心の高さをうかがうことができました。「土壌にすむ生物」の実習では、約一ヶ月前に校庭に埋めておいた生ゴミなどを掘り起こし、その土の臭いがかいだり顕微鏡で微生物を見つけ、大喜び。また、例年好評の「木工クラフト」では、次々にユニークな作品が完成していました。

実施後のアンケートでは、「学校に帰り、子ども達にも伝えたい」「学習指導内容に関連している良かった」等の感想があり

ました。アンケートの結果は、今回の企画に反映させることにしています。



校庭の土壌を観察中

育林技術の省力化に向けて低コスト育林技術勉強会に参加

〈指導普及課〉
〈森林技術センター〉

九月一日、徳島県三好市池田町において、低コスト育林技術勉強会が開催されました。

この勉強会は、四国地域森林・林業支援研究会（事務局（独）森林総合研究所四国支所）が、四国四県の林業技術の開発等に取り組んでいる関連機関に参加を呼びかけ開催したものです。



低コスト育林技術勉強会の様子

勉強会には二七名が参加し、四国四県の関連機関に加え、民間企業からの参加もありました。四国森林管理局からは、指導普及課、森林技術センター及び徳島森林管理署（森林官三名）の職員が参加しました。

はじめに現地検討として、徳島県有林（三好市）でスギ大苗等を植栽した試験地を視察し、その後、西部総合県民局三好庁舎に場所を移して、低コスト育林技術勉強会を行いました。

勉強会では、はじめに情報交換を行い、四国森林管理局からは、森林技術センター鷹野森林技術専門官が、低コスト造林の取組をテーマに、現在、四国森

林管理局が取り組んでいる技術開発課題について発表しました。

続いて行われた意見交換では、①大苗を育てる技術や現地までの苗木の運搬方法と植栽の方法、②植栽後における普通苗と大苗との初期生長の違い、③低密度の植栽事例の報告、④ニホンジカ対策、⑤下刈等の省力化など、幅広い意見・情報が交換されました。

これらの意見・情報については、今後、各関連機関が検討を進めていくとともに、更なる情報交換等を通じ、育林技術の省力化に向けて連携して取り組んでいくこととしています。

親子で森林や環境を学習

―木工クラフトも楽しむ―
〈ふれあいセンター〉

八月二〇日、愛媛県鬼北町の広見体育センターで、「親子森林環境学習会」を実施しました。この学習会は、生活協同組合コープえひめ宇和島北ブロックの要請を受け、職員が指導に当たりました。

当日は、森林の働きを学習するとともに木工教室を通して親子で身近な環境に関心・興味

を持つことを目的に、会員とその家族合計二六名が参加しました。

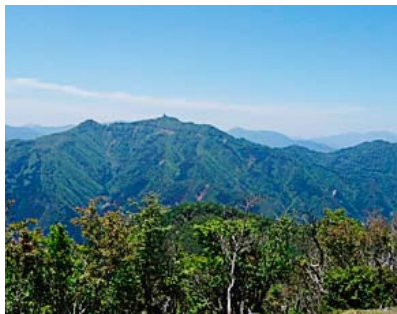
森林の働きの説明は、低学年が多かったことから、紙芝居「森林からのおくりもの」を活用して、森や木は身近なもの、私たちの暮らしになくてはならないものなどと話すと、熱心に耳を傾けていました。続いてお待ちかねの木工教室では、森からのおくりものである間伐材の板や小枝などを使って作業が始まりました。そして、工夫を凝らした作品が次々に完成すると、親子でニッコリ。

子ども達からは、「森林を大切にしないといけないと思っただ」「難しかったけれど木工は楽しかった」などの感想があり、有意義な学習会となりました。



親子で木工に挑戦

シリーズ1 自然観察会と徳島森林管理署へ



雲早山山頂から見た高城山風致探勝林

高城山風致探勝林は、主峰高城山（一六二八m）の稜線に带状に連なる国有林で昭和五六年に指定。ブナを中心にミズメやカエデ等の広葉樹とモミ、ツガの針葉樹が混交した天然林で四季折々に趣を変え、徳島県でも有数の原生林です。また、山頂付近からは遠く紀伊水道や鳴門大橋まで眺望できる大パノラマが広がり訪れる人々に大きな感動を与えています。



「ファガス」の森・バンガロー



自然観察会の様子

剣山スーパー林道を利用してマイカーで徳島市内から二時間と手軽に楽しめる立地条件を活かして地元自治体が昭和六三年に整備した「ファガス」の森は、登山やハイキングに人気で、特に夏季はバンガローを備えたキャンプ場として多くの利用者が訪れます。徳島森林管理署では、高城山風致探勝林の自然環境の保全と景観の維持増進に努め、既設歩道の修理や標識類の整備を行うとともに、森林環境教育の場として教育関係者や各種ボランティア団体など幅広い方々と協働して、今後も各種の取り組みを続けて行くことにしています。

シリーズ 87 現場第一線から

安芸森林管理署

西川森林事務所

森林官 稲垣 孝



西川森林事務所は、高知県東部、ヤナセスギで有名な馬路村魚梁瀬にあり、約三五〇〇haの国有林を管理しています。馬路村は、柚子製品や、杉の間伐材で造ったバック等が有名です。平成二十二年には、旧魚梁瀬森林鉄道の隧道・橋梁が国の重要文化財の指定を受けるなど、全国的にも注目

されています。また、毎年、「心臓やぶりフルマラソン」や、県内外から参加者を募り開催される「魚梁瀬地区村民運動会」など、数多くのイベントが行なわれており、活気あふれる村となっています。イベントには、当職員も参加し、地域の方々との交流を図っています。

当所管内には、樹齢二〇〇〜三〇〇年の天然ヤナセスギの巨木が群として林立しており、森の巨人たち百選に選ばれた橋の大杉（幹周六八〇cm・樹高五四m）がある千本山、樹齢四〇〇年のブナの巨木を主体に、イチイ大木（幹周五二二cm・樹高一五m）がある西又山、四国百山の甚吉森、卑己屋山もあり、年間を通じて多くの登山者が訪れています。



この希少

な森は、地元の小中学生をはじめ、村外からの小学生や林業を専門に学ぶ高校生などがたくさん訪れ、森林の役割や林業の重要性を学ぶ場として活用されています。当森林事務所には、三名の基幹作業員が在職しており、下刈・保育間伐などの造林事業、境界標の巡視・検測・修復などの測定事業、小型バックホウを使用した林道維持修繕事業、新植地のシカ食害防除ネットの点検・補修等の業務を実行しています。管内の状況等を熟知している職員がいることは、適切な国有林の管理を行っていく上で非常に助かっています。これからも、職場の仲間と共に安全第一で業務を実行し、皆様に親しまれる国有林を目指して頑張っていきたいと思えます。